3．母子看護と家族－都立大塚病院NICUの紹介－

都立大塚病院看護科
柳　澤　恵　美

都立大塚病院のNICUは，昭和62年10月に母子重点医療対策の一環として開設された．産科病棟と同じフロアにある．病床数は30床で，43名のスタッフが3交代で，「障害なき生存」を目指し日夜努力している．

入院対象は，在胎22週以上の出生直後の新生児である（図1）が，外科手術を主たる目的とする他病院からの二次救急も受け入れている．平成6年の入院数は465名で，そのうち257名が超低出生体重のためNICU入院となった例である．

入院児の73.5%は，母体搬送を含め院内出生で占められている．最近の母体搬送例は前期破水・切迫早産・多胎妊娠によるものが多く，そのため超低出生体重児が増え，長期入院児で満床状態であり，他施設からの緊急入院依頼に対応できないことも頻繁に発生している．

低出生体重児医療の原則は，以前は安静・保温・感染防止が主であったが，現在は母乳栄養を基本にし，積極的な治療がこれらに加わり，呼吸器系・循環器系機能の24時間管理がME機器によるモニタリングを用いておこなわれ，その結果救命率が年々向上し，超低出生体重児の70%が生存を継続できるようになった．

しかし，厚生省研究班による超低出生体重児の予後調査では，1990年1年間に出生した児について追跡できた853例のうち，正常発達は75%で他は境界を含め25%が精神発達面でのハンディキャップを持っていたと報告されている．

さらに超低出生体重児の場合，入院期間は平均140日であり，その間の母子分離から起因するさまざまな問題や，児の予後に対する不安を常にかかえた家族への支援が，この領域における看護活動に今や不可欠な要素となっている．

私達の病棟では，上記の点を考慮しながら家族との連携を深める活動として以下の援助を行っている．

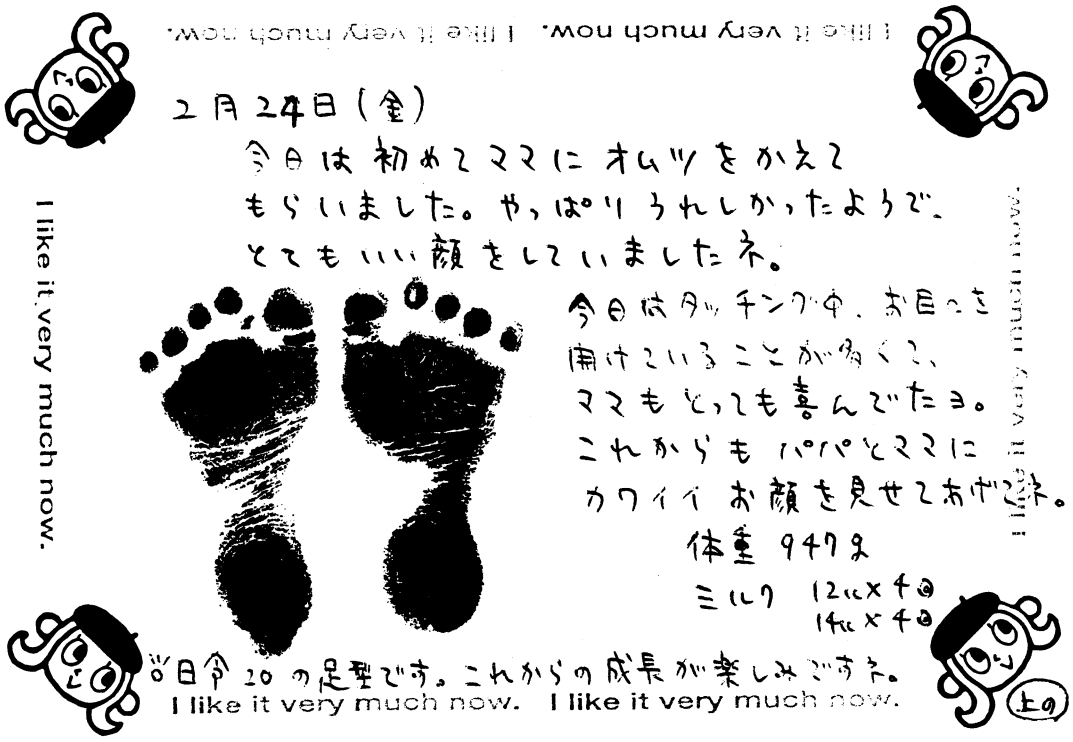
1）入室面会（タッチング）を両親のために1日24時間許可
2）交換ノートの記入
3）冷凍母乳の運搬

図1．NICU入院中の超低出生体重児の1例

4) 早期リハビリテーション
5) 直接授乳の援助
6) 退院指導，ケースワーカーや訪問看護科との連携
7) 同窓会の開催

特に1)の24時間両親面会許可は，父親の夜間入室が可能となり好評を得ている．また，ターミナルの児の家族のために祖父母の入室も試み始めている．

次に2)の交換ノートの一例を図2に示した．記入に際して注意することは1.看護側からの一方的な記入にならないように心がける，2.家族にも書いていただくように促す，3.質問や不安には必ず回答す



2月28日（火）

・拓●の足型ありがとうございました．とてもうれしく思います．
2日も拓●に会えなかったので，会いたくて会いたくて，今日が待ちどおしかったです．ここのところ体重が増えつづけているので，拓●に会いにいって体重を聞くのが，ママの楽しみです．
この前は，オムツをかえてあげました．うんちが足についていて，ふいてもふいてもなかなかとれず，小さい足なので，すごく緊張してしまいました．
拓●（2人目）を出産したんだけど，まだ実感がわかなかったのですが，オムツをかえてみてちょっとは実感したような気がします!?
今日は，お目々，あけているかなぁ？　泣き声も聞きたいし．
拓ちゃん，起きていてね．

P.S　お姉ちゃん（ま●あ）が，赤ちゃん（拓●）に会いたい，会いたいよぅ…と言っていました．　早く大きくなってね!!

図2．交換ノートの1例

る，4．時には主治医にも参加してもらう，等である．

私共一同，いつも「小さな命」を家族と共に育ててゆくことを大きな喜びとしている．

以上，簡単に大塚病院のNICUの活動の1つである家族支援の状況を紹介した．